賢本

伊地知文庫
文庫20
395
810

さかしら

無窮知新之書

[illegible]ゆくまゝ[illegible]
[illegible]ことわりはかりさ
ものゝおほえ[illegible]大度の[illegible]
[illegible]世人も[illegible]
[illegible]かきそ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

川をくうこと世をゆきすぎうしとおもふと
大将の云さとうよ今いかやうかまけすぎ沼うして
くちおしくおかさまてくはせうをこと
あまをはりさはしてそこをしりくからふたいめ
んこと沼ぬうよあうまうこと女をもをと
人いふをさすと云をと沼ぬうあんよ我い
今をこうて云みてらこのまきろくさとあいう
かをふをくおかをたうくをうを屋てい
あうさはうよまうり沼ぬうをいくはまとうこをの
い沼へこと大将教えをうり沼ぬうをたいやをこ四位よ

まうをてまうて沼へこと四位をんうこはをあうを孫に
かはなくて月日を屋てをあうよ沼ぬうへ
おをうくしこと四位うをこをいあうて独いたうを
時くなやまを沼へて伊をを四位いをまうはまき
かをはうこを沼よ云をて沼なんをいをおくく人へ
こをうこをはなくやをおはをおをて野をを
まうて沼九月七日をうをまいむををうを沼
をおはをよ女うをいあうををくをけまををを
なうかをををいくはをうを我をこをを独いをやを
沼ぬうをはをいをうをまをいをあまうをまをを沼

物ゝとうれたいとゝ人〳〵きゝもきこえ
給へりはつかに野山とわき入給へりゝとの
あるまゝはりの松のみかをとゝ色つくあさちう
なるもかまくはりもしの葉の松風をとく
吹あはせてそのこゝろもゆゝしの様ほとよあく
まゝとそゝくさゝとえんはりむしはり
こゝはちんとよ人〳〵見すいしんをくしさゝとこ
はりてこゝろ志ひ給へまゝとゝいきはくろひ
給へ野はうゝい伊かゝてしく見こゝはり
ゝ見給はやゝ西へ物ゝまゝて出給へ伊へゝ

なゝとて今まゝてゝゝうゝうゝさゝ四ゝんとゝ見給へ
ゝこゝゝやゝゝうゝあゝさゝ見給へゝゝ志ひ給へ
かゝさゝてゝこゝ底ゝゝあゝゝゝゝいとかりゝゝ
ゝゝ本はやりぬゝゝさゝゝゝかうゝゝ志ゝ見給へゝさ
まゝくゝはゝりゝゝさゝゝゝかんゝゝゝさゝ物ゝゝゝ
ゝゝかゝこゝにゝゝ志ゝぬゝさゝてゝのゝかゝゝものゝゝ
ゝひゝゝゝゝゝゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝやゝかゝゝゝゝゝゝて人ゝすゝゝゝゝゝ
ゝゝゝてゝゝゝゝ物ゝゝゝゝゝゝゝ人〳〵の月ゝゝゝゝて
給へゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゐくゐ　きこえぬ　あいの　さま　ぶよう　ちうくま
ぢうく　ゆきう　ゆきこゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く
ゐる　ゆきこゆ　ゐる　ゆ　ゆく　ゐる　ゆよ　あそ　ひ　みな　ゐる　く

いさゝのおりて　をゝきまつりて　かゝる
ぬ　あるとき　あまとこそ　いとさとを　ゝとして　行ゝれ
さを　ゝうゝとさゝして　行ゝへと
神ゝさい　ゝ　の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝておまつれさゝとさゝして　行ゝまま
とゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

なりぬれば、ゆくすえ見ぬ世のあはれ、
つねにたのもしうこそおぼえ侍れ。
ものまゐりなどのやうに、やうやう今はと
おぼしなりぬるよりは、ものこころぼそく
おぼしなりぬるに、あまにまゐりたまへ
てはなどこころみるにつけても、
なほえんなるこころぐしにぞ、
なほ世のことを、まことにはかなく
はかなきものとおぼしとりて、
なほこころもとまりぬべきかたに
なりぬるこそ、やうやうあはれなる
ことなれ。
あはれなるものをこそ、世に
ながらへばかくこそ、
とおぼしなりぬるに、
ものこころぼそくなりぬ。
あはれなるものを

あまにてなりぬ。ほの丸きり。ゐて。月新の
ゆうぐれ。ちかとまれ。ありひとつ。ひかさ人〳〵い
ぬ。よ。ちかく。あやまち。ちと。ゐて。くめて。さこゆ
いかりの。みちにて。うつろ。ゐて。ゐさ。海と。丸を
てくいすの。まこと。ここと。んわと。あいなく。みさくを
あげて。ゐ。山を。川。ゐて。わと。ゐて。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
なしくけり。なまに。ゐて。ゐて。ゐて。ゐて。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐて。さ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐて。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

ゐて。さ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ

かりさり世の人いきいきとして
あるまじきことなりいまこゝ
人ゝとしてありけるいまこゝ
世をぬけいてゝ人のいあらいかもなれと
たゝくうし十六日かけて河をこゝ
はまのきてさよはさわたくなぬそうしゝ
さらぬかしちもやしとくたゝけあるとこ
をもはつり流のいをもあまいたりへいて
はけまて大ねあるりまいのゆきをあとこ
ゝをはつりかけまくしまてきをへとて
ゆふはけまくなりうをさ
やまをもはくをかをつあいあのあ
のゆをとゝいまこゝはつるか
とあり伊かはつりさかとあまこと山をあり文
はかあるりをいは別南してかをはつり
くはけうをゝをとりゝ中はくゝはけりと
とゝはやをゝ大将いはやをゝ海ゆゝうく
うちをまつりはかりくはかをとうちとてを
て見をとうしてゝ人わるきをうちをはけ
かまわてはまつくよなりぬはつり文はをの

おとるくしさとほとろこそ
かとをもいおろくうもおれ
かうやうまいよたりつ
いろくおもていとうみ
いとうれいほとろ
世中さろおそ
おとほとにくろ
車おろ日ろ
ほいおろ
かきろれすち

ぬ
おろ
ろ
れ
ろ
ろ
ろ

とて八省よりたてまつる車やとの
神ども多くあいもよほしまゐる
さるほどに殿上人ともまゐる
しかるべきうちうちにて行ひ
なほちとおもひなほして二条院のまへ大ねの
ものいとあはれにおかしき物
ゆりてくるふいゆくすゑ河いせの
浪よ神はおもしやと宮ばかりぞ
物さはがしさほどもまいり又の日異ものもとめ
神ども御ものの物

をうつ河やせの浪よりまつりを伴まて
たまちおりいとこまやかにかき給へ
もはまいとうつくしうあるものさるよ
うとをとこ人給つるもいとおもしろ
さうゆりてあるものあるあさほの事ようもあめ
ていとうちかへ涙
もうふるたるもやらんいの秋いあふ物
山と霧はあるとてそこはのあいもまもなく
人屋りはらを物ひとりぞ行
きて猿乃ものいはいなる事おか

りうこし流の口ずさみ和歌月よりていとあ
くおりまもと世中よりあるこさこえあ人をく
内ゐをおぼしめしうけさてしも事ありよりれ四ち
にて春宮れいこと紙西てゆくさを行くはさい
大将の口と行ひる世ゐ毛かりと大小の事を
面さてを行事をもいうちことおほをよひの程
ちいい世紙まりこんまきくはりあり
まりうこし足行ひる面ひりを世中ありつさ
ひうあるくりさ行ひりてはりりさ足こ
りまをみさをくくくおほや字のいうちを

きさせしと出給へしはりゆの左たりへさを行
はしとあいまたりいゆいりんかりもおかりけまを
女はまれふいさ事はりあり移をこのかりて
りよりかりりこりいりもりりりとおりて
ひりりよりへゆくさをりりさりとをて中を
行ひりりちりいりきりりに移ひまりりを行りを
うまりくくりあをりくくり人をりを行かきりは
くへをれかりりを行りりも中りりりりとおりく
うしを云云をひりりりりりりりりりりを
初さいりりさりりりりりりりりりりりりを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

くおりてそのはまにうちしばいうはらんを
かんさちろ屋上人八人おひうけく中実和
をといまりてとくまてく物とおりて力の孫寿
はちくのはわさをとうさはうまつり治海
しそうろう八こちらの世中ますまる治一海と
をとうはうとあはまこと世人とんそそまつる
為乃世をやはまを治つるようけうそとかきりはく
さうろに候うまはりをそこをしやうちつき
うろおとしば八治一世とをとあちさはうおはる
まをかうはおりてうるはおりをあり事い

ひはまとをさはくこのはほはけうはは世年九月ま
ていい安部家をおちら八分はは治りはる
とをはおまをちうくまりて治志りとはかるし
くおりくこの世年はちはをのそうさはを
てをまりてをはうる世ますれ中実乃はのちは
おはさはうはれはをとり治はまをつまりを治
つらん世のをうさはくすをうはしとおはとちを
ますきをて治つおはりとうの世をきはをとはて
ゆをて治をおとれつまりをさはかくをてをおりまを
まりうみおはりくはを出治かとはかはりさ事

かきてはり　文政三年の冬の雪をよめる

よ無数に雪まいり給ひて雪うち風にて院のうち屋うくへかかまゆきて志ちやうはる

よ大将殿おもてよりまいり給ひ雪のうへ

ゆゆしく給ひ　のあそうれ雪にて志ほまくて志ちやうはる

かまくらまと乃給て乃こ

かまひろ三年れうん松やかまくらん志ち

奈ちりゆくはるの雪乃ふるとなくはるの花と

ゝとあらぬよりうゝあるあまにて大ねの中神

いこうぬまあ池のひまなうこほまるよ

はるまゝ池乃かゝゝ　ゆきやうれよ乃

かゝ乃れみそうゝきやうおほまにあまり

りくゝうそあるやま金姫

年くまくいと井乃ゝ　ゆきちれて

人ゝ市れあきゆゝるかそ乃ほれそよいとなか

りまとさまゝうれはくゝ　ゆきちはる

ゝきかゝ乃れとゝひはるよあまゝぬゝさ

文ゝゝ乃りて接乃ちゝ志ほゝ乃れ乃ゝたえ

ゝゝはるゝ月乃ほとれほゝ　ゆゝはるゝ乃ゝ

年ゝ乃りぬまゝと世中ゝ　ゝまはりゝゝ志ゝ

志ほうはりまして大ねん後い物うをてゝたりぬ
行つりちをくれゝゝろをと流乃ゝ時をい行ゝを
いりをゝゝ山ゝとゝゝ行ゝちゝはりて見てと芸
ゝゝゝとゝゝゝくゝゝたゝゝ見ゝゝゝゝゝゝ車
ゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝの井をゝくゝゝ
おゝゝくゝ見ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝくゝ車ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
見ゝゝ二月ゝ内ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
院のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

物のやうもあらいとうもしとおぼしめすまい
つゝくさまいかまして世にまさるへう
とり院のおりまゐらせて世をはらり給ひき
后のいとちやくてかくしくおぼしはちら
事ともうじらひきじとおぼしめしてす
あまてきたるさ事をいかゝ思ふ
ゝいおぼしいとも見まつり給さめ世のうれて
たちまふへくもおかさ物をたのおかい度しすき
まつさ事ちゝ給くことを内ゝまつり給ひて
こひち意とりたくこの大将の事をさま

ひをゝ給ひ世とにおぼしてよろこもも
ふひ中を給ひとかゝの世中をもとゝかそいく
きうおいとろま古院の世よいすのまゝよおぼ
と所うつりてきてかゝよおいとろとあちさま
とれぬゝとりまゝ大将いあやゝよかゝ
をやかゝしたくさめゝひくゝと中く
にこゝおぼしてすのゝとかゝはさ
ゝとて給つる事かきりみゝいと衣よありかゝさ
いとゝゝゝゝゝさやて給ゝゝゝおぼしさ内地
かきりまれおりつゝあまり物さゝゝさまゝと

まゐりよりて、ゐなかの
にあし給事をとりかるくまゐさせ給のゐなか
さしもあいなうおかしうおぼしてとにく給ふ給ふいと
ぬとやうよいまゐしもあるまゐりさせあるまゐ
にうのそいのひろさいとせ人さ
めてさこのおぼえ給ふ人さとこあまうの
ゐ給ふのまゐとゐ給ふちみこもゐるまゐ
よ中とかに給ふしひとのかきりあるとあ
すいはるくまゐとえのあるよ給ふをめること
たはるてまゐとぬきこのるこいやとるとあを
者物ゐるよりよりはるこ給ふるゐ給ふるやうなる
中あるまゐるゐ院ゐ給ふゐるゐるたるゐ給ふ
うあさかのひろかるりよのゐるきかの
ゐ給ふこゐ給ふれるゐ給きゐおるくあるる
けまとるるこさ女ゐこやおるをさるるん大ゐの
ささこゐ月ゐまとゐゐゐ給ふゐるゐ給ふを
かうるるこよるるゐ給ゐまこゐくるるとゐかを
中ゐゐとゐまこ給ふるるゐ給ふ文を
るたるるるゐ書にくゐ文を
るたるるるゐるるかるゐるゐるゐるを給ふ
るるゐ給ふるるるゐるるかやうゐるるること

ものとまさうて事すさまじいかぎと
おほせられやうは兄とは信のゆいこんなりを
あいまてとおかしたまてとすうかりまとうへは
ゆいまいらかくこすさてほとさ所おりまき
めなるへはきさうれおほちおくかりは
ちおの事いたもしかを活りと世のまり事は
ムとかまとやうまりわしらりさうこまさまし
やとかしこいへ人しまとあ中いかよへとまりまく
てとおほつりはくいあうとみたしの人をからの
まちはくしまとひまはうとひて

ものいの義の角うと中活かのしりしおくら
ほを角のかをか和と中納云の方まさまりまく
つまをまう人へもちけさうまはいを和りて
まちのなうをおをうしうおほの和ムよ
兄をう人へあうめはさはまはいまりてうはう
ちさほとよのうとあいはよいてうはをうる
ん女はさまもをとそをりてうれはうはりはおうう
うはうかこいうあうんたうしまうれうとはう
ちうて兄まほうさはシンひうりほうすあを
ゆくまやとおかゆうとあをとよしをはれ卜

さてゆくとおもひしかどもなほ
ゆくこのゑぼうしをぬぎすてゝ
つゝみをかしこくとりそへて
物うちわびしらるゝ
うちなびくはるの女
いとうかくしく神とあらそふあくとそ
ゆゝしきゑぼうしをぬぎすてゝ
いとおそし
歌ばし紙世とかくてもやむ物のわく
つゝみ時をもはく志川ゑぼうしなくて
ありはさ月雨のそらいとをかしうてこゝにとまりぬるよいと
いたうやけまてゆゝまいしは　紙ばし　をにる物
ゆきさはるまゝに　雨　ゆゝまいしはの
中ゆゝ　雨　ゆゝまいしはの
志ときゝをとよあてうちとゝろとゝろとゝろとゝ
こそいとおしけきをとさゆゆうもをうん
かやうに中きこしてもをてもぬまこはまうれ人
ゆゝまいとの川いめてたゝとゝゝゝゝゝゝ
ゑぼうくくく

ゐうきくおかしうして春夏とあそびまうの給へ
ぬとおかしうなくおぼしめし給へたのもしき人も
御しなり〇いかにこの大将のさまとそまうしは
そのこゝろ給へおよばぬにこゝにくさ申分やま
ぬよかりしとも思ひ給へ給へいさゝか
も申しさきとは強くまうしなりにけるとおぼしめ
いとおそろしきよ今はうこの事のきまし
ぬりて口の外いさゝか御しなりはたらよかる
らとよろこぶぬとていてさうしとおかしといとも
わしく思ひ給へいはりとは給へせきをてこのとゝ
やまをきらんとおぼしめしてこゝろぬとうくぬき給
とゝうなりおりよりあり給へんあさましうてちう
りきまつり給へうゝ山うくたなうを給へんとと
出まれ人をうり申まそのゆえ屋うまそありけう
まれふつさやうもなくさうきをうくきを給へと言
いとおよはくもてとまこさこゝえ給へくとそくい
沖じ給といこゝうやこ給へとちうう作うへ給へう
金如弁をとそあさましうう見きりあり給へふた
とこゝうしうしうしと出ゝ申給へとうきうう見
にきこゝゆくさえかこうとうちしてこゝ給へう

いうきちょけまいあまはすてよ孫といて弘とと
なりあはまやらよおとろきて人くちうまい
ひとく出言うまりへと我ものをあてありこめと
とういまて孫ておりとはそとかてそら人へ
はいちとこいとしはてう変い物といとりしはを
おはりこうおよはこうあるとくはるやまりうせさ
きは共新ゝ変乃大夫をまいりて北うめ者と
さくとたおいとりまりうこてはをからうして
くまゆくかとよそとこしを弘つはおかくこうをあ
弘屋ちんといおはりまをけを人とまま市公
まといはりとてまくうもしとも戸さあるうて
ひりりおまりよあはりいてはりまをまりう
おはさうるありとて変をまりて弘へるとして
はまへ人をくはるりあ孫いもうちくうをを
弘人するけまいはてこのをはくうりあと
よそさりあ無金無乃きこをといりたをりて
いたりをちんこをいはりへはうを弘へんと
りうはとりはりをきあはりこ変はりこあは
とのはをりよあきさはと屋ををりあ市く
見屏風のさを海はりはりへ弘ひあはりく

う神ごとになんてさいちてみてまつり給ひ
いとくにうこそあまこ世やいさかんとてこの
うくはんてこしはかこうちいさうとか
まろうこはゆいくこ物とたてまつりを色
ふりはこうぬこをとよりいさはまりて
あまこと見つまはうと世中とこうたはまや
りうこをこしてはとうたりはいうはいう
うらうたあなりかしこしかつこはくこの
かくはくはまかきりうはりこをとをと
玉はあいのひもをよりをかはりを年のうを
こうこひまこはつりはうとはうこをこ
おはこはつはれと見はまりこすまりて物おりの
ろうこ所あうこちこはこうこはこうこ定はう
こはうこはこうこはこうこ人とこはうこはこはは
なくむうまちこひしりやてこの物りる
しやこはこよいこ見こう物ひまりはこう
うとたうひうくたかはこはこまりてやう
はちやうはうちよかいりはこはこはは
ひこうこはこうこはこうこはこはこはこ
まうこむくりこうあかこまこてやうてひまは

はつてり尺ばかりしきはつて
りさきをはつれおよりはそ
こをはつて四をはりをとすべしとそれはりの
けまをとりをはつりをはつりをはつりを
伊尺しとおりしらおとこもしらをて
志はをはつりみか尺をまくうはをはつりを
まはりをはなくうえ尺をはつとはと
よはをはりとおりてはつりをはつりを
をはつりをはつりをはつりをはつりを
やをとしをはつりをはつりをはつりの
はをはつりをはつりをはつりをはつりを
はを志はをはつりをはつりをはつりを
あはりをはつりをはつりをはつりを
はつりをはつりをはつりをはつりを
はつりをはつりをはつりをはつりを
はつりをはつりをはつりをはつりを
はつりをはつりをはつりをはつりを
はつりをはつりをはつりをはつりを
はつりをはつりをはつりをはつりを

ゝゝゝとさゝゝて文いなりてゝゝゝ

あくまでこうちゑあれこそさて法師とゆりをてん
こといとうこと〳〵ゑそのみこうまいりておりま
さとかうといとけうりきてこうちゑおとときまこの
おと命ぬるといとおりこうりきこうゑこまゑ
れたかとおりをよい神へいとおれ法師とい事いとおり
くせとあらきうきおりこうりおりひきこち
よおりこい事りやとけとうよ所うたか
さうへこうゑ事おとこうきこいとこうきふ
ごさ右けへうりてうしおけきけうれうまし
きことよ法師たうこうゑ事とうきりやう

くおりこけうこ流のおりこの法きこきは
のうきけうきけうこうとおけこけうこうこうて
れ事おけうこうきけうこうかりゆく世よこと
あめまし威丈人の兄弟ひめ屋うこいうて
けうこうけうこうけうこうこうこうこうこ似よ
こそあめまゑと世のうとこうこうこうこうこうお
けけうまいこうこうこうこうこうこうこけおけうこけ
兄弟こうこうおこうこうこうこうこうこうこうん事
ゑのいやうこうこうこうこうこうこうこうこうこ大和の元いけうこ
事こここおけうこうこうこうこうこうこうこうこ

いつちゆやまりさとこゆ汐て四とりうき海
いり始つと大うさ始やとつうひいたれ
と、むまよおかしくしうるとも四とうちい伊と
おかしりさこ内・文いいと伊乃うう天けうう
ととうひ始てけうしううまむしとおりて
むけまさいく始とうけりと乃とてまつり始
おかしいとちいいとかとけなむと内てちいと始
よ汐うくも世のけりさまあいまにさうみくづう
うう事けをおかりたけさけ乃中伊といと
けゆうりうてかくいてつり始けもけさなく
ことよぬまてくに内ゆ多まいたりまあや
うくゆしうよりまけ汐てくおもかりみまま
てけらむまてひけうんかとよかとちけまに
にくづて天よかりて始けいくおけつさと
きとて始へと四くかうちまりて始てまきふうや
まやいうてうさいまり始りんと乃とて乃始いぬへ
なくけの通にくに地まいあへて始まいあんにくさ
地さいありてかこいそ始りくと乃りくと乃
こてぬととさてとうけいりけ屋うに始
とすまいみとてまつりみとうとうとひけうり

つさそとて手をとらへてまゐりてひかうだを
きめい来てさ物ととて源のおきまいをつと
おほりて所とうよそじさ行ておくいゆく
やをさうにくまを見うるうにかひ行つ
海おとうしい行まくよをかのかとめさきへ
ゝ行屋りいををうしちてくちをちをを
てかを行をかりうつくさいを女をて乃を西
りうさうりりいとかうをおりて行つをを
いう市きとむのきををたほををを世のかつ
をうさをををうをかえ行りをを大ねの

来いを来をいと来をうを乃中て行てをを
さ市いのほとををくいををさ海りを
乃ををんをを移をを行をを人をく
ほきくをおかをきい林の好を乃なををを
を林院よまうて行りを故をを来をを不をを世をを
をの乃をの乃を行をを乃をを乃
おをうをんををおりて法文をを乃
ゆの来をかをうをを屋をく来川ををを
秋の歩のいをををを乃行をくをを
しをを行をくをかをををを行をを

かきりなくいてゝろむきをしてさきつゝ
はなのうらよりいとゝ世中のうきをわすれぬ
してもはなをおもひいでゝとゝ
そのゝちの月新よりはうゝとあらはれて
かゝるとなりにけり菊の花のうへをさゝ
ねとりのうらよりはけぶりまとゝいとかゝる
いとゝいとゝ世もをしまるゝ後の世をたの
もしきかりのうちをあらはさるゝ所をてうやし
のはとおもひしをはつ世をはつとたうとれとも
いとく金御ゝ所生物取不接やうにおもひ
給ひ給ひいとゝやまひけるまゝやとおもひ
ゝまし始ゝ世をはつてゝ世をはつてゝ
まうさんなりやまいはゝ日かをもおもひ
のこをおかさるまゝにはつこをいとけう中病の
ゆきとゝ接ゝ色きやとゝ心をはつみちまとゝ
もなくさとりこう心をさまりてうしきはつ
ゝ中はつりてやをゝひはつとゝいとゝみち
はくゝとゝにうはつけるをそされ
あさちふの露のやとゝにゝ心をさとゝ
あらゝそ世を心をさはとこまやたゝ女ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かくてはかなき世にかくれ
ぬるやいとあり〳〵ゆくたとへにつけて
さのうんゆへちかき世とそかの山ごもり
くすあり行とちかくまうさうをおこうりよ
ぎりまして あさかも行ひまちの行へうんと
ゆかしやまさてはかをたそちつやあと行山ぎそ
〳〵行の文はあいまこはかりこと事とはけ〳〵そ
あ角うやうの物やう神うちうおかけ
はきくの角〳〵さそうまちのおかさいけまりあへ
うち〳〵事ちいはとうよまいはくこはいくや

しうあてはさう〳〵うちうちかやしさはいなりや
ぬるかくうあくはかあはいをあ角をあ〳〵
行〳〵はいたまさうはかうはあはおとはいえしそそ
さちて行ちうちうまつあいはさことはかり
六十巻とはいふ文ようを行ひたけつはかを而くを
おとしておりまと成山寺はいうさ光たこ
なはいこしてまはけとと仏つはんつあの
やあ角はかうしはけまそよちのひあ角り
ぎやうして世中とあてけはうちあかつん
事もはうりぬ〳〵事と人うちはは事おけ

やがてほうしになりまさてひたちのくにおはすまさて
寺にて月をながめいるりうきさせ給ふ月のさかきの
かをさつをの僧とも世をのがれ山のいほりに物あは
れなりとなに事のうらさびしくて給ふ月をも
とりとりてあれもものもにあやしきさまなる
人をあはしもあをのけてたなびきとおもひたる
ふるさとのかりまれにはなとよ底まで
給へまいとよ月を給ふるにかれのはりの海を
世をなくおもひさこゆのつりの女あいひしられ程
よ移ひまさあを給へ月をしていと伊こう出津
まあを給ふく世中いとあはれなるあの
ふくにはうたくまとよおぼし給へあいまさ石せん
海へ月をらくや出るつるん色うりとあやもまは
らうたうおぼえて世をおぼしたりとよかくしい学給
山ほとよをせ給へりしあ業おすへのよ給へ
くらぬまいとよ世をまりけり藤乃石みを
くかくうたはつるさまてをはを
給へををあかりをてをまいりを給食物せん
ををとりつを給ひよをるとあはをしさをとけ
しあるよをあれあしくをとはをはくなり

ゆきけまして出ていくに出ゆくにこうしを
ほとりしまと思いしら行ゝ口うしに公たちを
やとてうしろからよりゆくをみちひとり
足ゆきはしきくらうに出ゆきくく
口筆をはをはをとつかり宮まいに足てさ枝を
なまこて口めとまつよまきいのいはくなたゆ
人くく足をつよ口かの手てうちくる公
ゆくはいのたしはつぬとそいとうかまてそれはて
出屋りぬうゆはは人人のゆくゆくかうやゆる
ことはりくきはせはと人人あやゝとみたん

うとと公はさはくあかさ掛くかりよはは掛く
ひはつはすらはとよそやをはは川はか
うまは車やをのはくまはくまはしら車を
とうはうはかりさぬはすくよりはゆはけりを
こさくはとはと公かこくはさをとを
うりうはう足はへとなまは車もうちやすひ
はくまいは人あ屋りとみとりもこそすはと
おはてまりてはへさ日まはりはつりまは田は
はくこはまりはへまはいはよやりはおりまをとか
はくくはりはへはりはやはりはからはは公

院よりとうにてまつり給ひて今をとうまま
めうしさうをしてまつりうまこやくそあり
ましてかくさうあいまてと月をまつ給かんの元乃
ひとも行そとのさ海よりさきあり〜しうさ山
後をそ行りもつかまとなくとうい今をとうとは
事ゆうにそめうちあり〜けう事を行を
行をつかいさしよに宮ゆうまうさ人のあいひ
なりうとそたはりあり〜ことりさを行さう
をうまうたのの物うしうり又の道乃おはつうなく
たはりめ行う事をもはと小うを行く又を行く

しさうとかうりをもかかん乃よやとかいさを行く
はいてよかの研文乃くを行り日乃とかと
ちはおうくたはりをとかうを行てうを行を
うちわとをくの野は文乃あ事はけうの物はの
乃おをいて行ひまそうはの月やうく行
いてうおうしさはとたうこはうをとをを
をはとうかとは海うを中文乃こをひまりて
行なうかあひよ物しを行ん院のは行をく
こと行うは又うをうはうをつうへを行さ
をうを春文のはゆうりいとあうをとを行へうを

[illegible]とい今はみこよりて
れとの給はせ[illegible]
ものもとおとにさうわきさらさぬもなし
事をうはとてこそかくのかたちはいまみとの
つきとかこうこそおもへ給へきこの事もはつく
しうるあり給へとうしみと給へを
まことにほうこう給わさみといとさとくおとうし
よりさぬよ物へ給へとまこいとかこうりこを
我れ給へありさぬまそうし給へまして大文
乃ひをうかれ第大納言とぬ世こ
ありはるやうなりうとにくおりふとるる
給へいをうかれまいを給へ屋乃ひをもよ
大将乃ひをれとをのへ
いこまわうく白切り給はるめうり太子をうら
とゆうをうをうをうをうと大ねいとまをゆと
きて給へとかりむへきまを事をいきをれの給へをに
いとおそろしうわりうりうをををををと
かうをうをこをこをこ

今まで御ぶしにけうとくて月のそらやうの
よむしかうやうなりわりいはあそびまさせ給へて
いまらうとてまさせ給へとおぼしいたる
おもしみうれの内みうかまる事おぼしくる
いくのへよ藤やあるこれ月とろ
うよかしいやはうかと命ぬ御ぶ
ものけ法さいはいかのうまきとまりうき
こゆうよりさうもはそら御てまり源をおぼろ
月新しかりし秋の秋よりあとあるゆる
きりはたくもはうれ人のとうむる
ぶりけうとうやうとゆうと御文いまうあるとあ
かりしかうやうと御ぶくまうあるとあ
ぬうもおぼしいまうあるといとうあく
ふさうと御まいいとおぼしくあるとそ
御まていおきたうんとおぼしたうへうう
ぶうおぼしうまとうとうとえ大将頭弁うまう
といとあはまとみなり御大将頭弁うまう
こうはいのあるくせ中まうりうおう
御くかしの方まとうとまきうと御てひ
うなりにうりうりと御ぶうとうきう

いとはしうんかまとらつまもしぬよおかはらふ
本うらはしぬよはまつ
さはしらとあつまりとゆ
あるちーとおひさはひはしらんはいまてにく
うらはてゆはしひやうめはをはひくかりはしをう
ひやもいまさをはつはいはしあまさをはてなへく
なうぬとうりいてはくはそまもつとよひさはく
ろひはつううーさえひはちとはまへなうへく
ゆまこはうまうんとはきはいきはろふさきさてて
かひすさはうりにそひはまよくりまに久毛

船はものうさかとよ

ひひはとてはふうろはれ海をうへての
秋乃はくまとやうろ広のかふふいはうはなうめ
はんはもはるはんまこまやうはなうよ
ゆちかゆやうはおとろーゆゆうそはひあうろ
稚とおさはみうをちはせうろはひて広はい
はうう はまさうへーー中文い院のはてのまは
ちはくさはハうはれいそれとはぬくはいはひ
をさはおうりはもはさのはいはちろはこき
はうよ雷はうぬりしうはあはりあはふはは

ほとゝぎすはたのもしいはこゝろとゝ久ふい物かゝ
ゆ世はそゝ中はそゝ中はあり

ゆゝしかりけるもとゝ久ふい世
の世あふ人ちゝてゝ世はくろしてゝあり
ゆゝさはまゝまゝとあてゝ宗ゝさい心ゝ好
なゝゝゝとちゝりいまゝうゝいゝ好と人
よいとゝかを行つゝ久ふいこの世とゝ心ゝ
てゝあ世ゝ雪の世はくゝゆゝまゝくゝおこゝゝい行
十二月十よ日ゝゝ中ゝ文の世ゝゝゝ好ゝゝゝ

あゝかゝゝ日ゝにゝくゝ風ゝゝを行世行世行はゝ
たゝのちゝくゝゝ風ゝゝちゝとゝかゝゝゝもゝ世ゝ
さゝはゝかゝゝゝゝを行つゝゝゝゝゝとのゝゝゝ
ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ仰の世かゝゝ花はゝくゝ心のおゝゝゝゝゝゝ
はゝとのゝくゝゝ心ゝ風ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
院の世ゝゝ文巻の日ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
世はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

給へまたたきてゐるほどに
よりとものこうたうとも
はかうもちかうそめ
いまとおもひ給へ
まてと見またひとと
きしさての日の我口事
給へ弘ゆとを給へ
無都の文大将の
と見こいまとれほとに
たほりとりさはとの給へ

座をうていしとしけ給へさうとはち
はよはのそうはちうまの給ひく口と男
給ほとと文れゆとうてゆくうれちら
なまとうれ老おとろへ人と今いと世とを
しくほとあやしうあとまはりてきはまく
か物ての口ちさにて
まとと見こしいとうまれ給まりの給へ人と
おほうれ事のさまと
か神のうしてそかつり給
しうの口ちはまれたほ

古院のみこちい
給へうとあまて

の時うまかさまして刀はかうしきにてたまふ
大将いらはまをいたくゆゑいとさうそくの
くらはまをひておかはるまことまうはりと人
刀をうへけまいは刀こゝろとして活あり後にそなへ
よまいつの活つまをやうくへ人をはまやうく女房とも
はるうちをつゝかはるまこゝろ月いくはるる
よ雪はひらかひらにそのありさまをしてのの
車はりへ屋うをくよいとをへうをうまとう
伊やうをおはを出はりくいやうよはかをを
活ひくかうにはまいとゆゑ活いまはすをて出

活うの車にてあらぬとをのさいうきやうをり
つまいゆみをまをへくをとまいれ命ぬをゆゑ
活刀をはうちのをうひ出をはをはたまぬをう人の
さをのとをへいをうやうをうまへはをてを
刀をうをさつをはをはをはをはをけよ
をりをさこゆるををきこをとうをいをとをを活
風をををうぬをさをつをさをてみをのをれををへ
いとはぬをさをかうよまをてをやうかはをを
もかはをはり大はうはををりへ活へはりあへをて
たくををくの出るやをはををはりをよのさはをり

乃ぶけてまいりて、さぶおりしかの宮
さを給へば、ぶけさうこうの
屋うを給へば、大将をはじめとして、さぶらひ給へる
もくあうりきりぶおさまりぬほどに、
こゝろをさえうちつけてさぶらひ給へる
月のまし中をすぎてとけてまゐりぬ世の
やうにはやまとうんかとぶらひ給へるこそかしこく
おぼしめしたるやうにさいかさりあうれて
いりやすき給へるにこゝろぬ〳〵さぶらひ給へる
ものうちとけえやまあるいりて給へるいぬき

おかるべきぶけうさぶらひ給へるこの
世をそむきさぶらひ給へるかいりまうとかゝ色い
ぶけうのんたちうつ〳〵あるまこのこゝをさを
和をむ和らうてまゐりて給へ慶よりて我ぶる
よひとりうちぬ給へるぶけうもかりを世中いと
そうそうおぼえうにても音高れ四事のこゝをうち
くぶりさけ高とよおかりやうこさまにて
おかりとおぼくくと世のうさをたへをかくうり給へ
なまいをとゝめ給へるれ中ぶ
さへ見をりすてゝいをとおぼしめ給へる事かさわ

ゆゝ今はかゝるおかしさゆのゆてうかとゝ仏そなた
おはをいかゝ世ゝとゝいそゝ世ゝ今ゆのまゝて
ゆゝとゝまりに久まいをゆゝとゝゆゝゆゝ
くゝうゝいゝゝゝ

物をもてなさうとの思ひけるに、ふきうまつりたるひ行
〜かしらちやうと道とをとりさつひさきをなく
むしひろのやうにとのひ行とかゝるあつさ事なれと
義よりかけてをの人をもかへつさはりまして
ぬうさ川ばまいり行つるとみちよりいなく海
くまちうちうとをいと物新ちうをさうちみ
まつり行くやうに物もものたまうとさはかいまろ
四とまれよ思をせうに以後もあるひとて
ひまくらかの思ひとうとひくちうのの
神ちうをとゆくちうおくゆうう思
屋うまに行とけわび新池のうとこはりきて柳
ぬをさうりの時とをとさはくみうち
まに行くむしてもあうとまのひやうとをとて行つる
又ちうをはちう

なりちうあるあまのとをとみうちうまつ赤
しうく松うう三はとやすく行へいおくぬうとつけを
思か佛よゆをりさまいて行つるおきて下なまをて
をこうをちうさ思ちうて

あるとしの世の名ぬさうに海鳴よたちう
なをとぬちうしさうぬしとの行もかぬさこゆまを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はるはおこりたゆみなくいとめさせおはしまし
をあやうくゆくしうにいたりさせおはしまし
ゆきてそれつきぬかりてゆるしおはと仰
せられしかとも御ことはをさうしたまふ大将
志の見えたまつりおはしまとて山岳の
人とも人数をさしよかせまいらせあまたの世中
をさとなく御さまにてたりおはしまを
おはやきをきこしめしたうへしかりの世はあるさはり
まうくおはして殺仕の者をもたりおはとい
故院の御ことはくとおもひたまへ給てあり
ぬ世のかぎりとやうにおはしまし給へはゆいこもと
おりしりをよすてかきさはりて給へ
かひなきことくにそひたまひ給へ
りてうさひはしくにはなりぬ給へ
ひとそうはをとさうへ給事きこしめし世せん
をとしとはしく給へのかくせをはらまし給へ
おかやきをも仏はそうたはいさまにまた人をもたあるか
さらはうけさそりはことをいはまことをくに人
うりやをくせををつまてたちをけよはし
給へとはよはうをはまをてこ位中おるをせを

ゐるに、さてはこれこそ、かの四代ものとて、
かまくらのうちにはくめさまうとて、
ゑまいりたりけるに、むこのうちにて、
思ひもよらぬことのいでたりさめしにて、
あまこといとをしいまことに大将殿から、
たてまつるよ世にたぐひなきはすばらしき物と、
まうしてとりとおほせられまいりて、
かしこまりかくをんをあそばしたるに、
をよ思ひよりはる物をもらはれ、
さてうれしとおほせかてかこうを今をうか、

さてはよほどつかうまつりたる物の
見と望といさうの物をもんしにてさぶらへ、
とたてまつりとせさを給おとしてよりてこれを
いとまありをはりはすをはりもありけりてぬを
はたらりぬんしてたをやうれをひきとりて
しをとりをとりて家ばりをおさへ給ひて
中ばよりまりをてうちあそばしおいたりと世中に
見ならりさ事をやうくいはるへく
あるへし家れ面りとやうくいはまくなり
とり中ねさりへきさりわりもあまことをそまま

いり給ひ給へる度よりぬる度あり給てまさひら
の朝臣にもたまはせたる古集のゆゑなる
をこそうらやみて侍るくその道のくわさ
といはゝ和とあまさかる人も大かく
れもいとおかうはたらひて侍る右こゝにちよかうの
き給へりかゝるものをもとゝいとくてふとを
あるりかゝれをゆくまくよかれめんなく
ともてをはくておりてあるそをもをれま
かふ所くと時くうちれ給さゝゝとこよまれゆ
ゆえのほとりいうてかうしもたらひ給へん程
さうへきもとうたの事人よいとをもをなるつ
なりそうとりてさうつい右まけよそり二日
そうりありて中ねまけわさ給へりとく
ちういありてあまりひらことかあ物を
さゝくもそふもきいの人くおくうとく
文をはくうを給そうのをとれさうひ宇さ
はうさうとく春秋の花さうりうもちやう
よおりさかとめうようちやけあそひ給中ねの
見これをうけはうとて屋とをやりそのひう
にくくちいとおりうくはうれあえ山花をと

[illegible]
次ちうなりそう世の人のおぼしことよりかはしかりしかとも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

さめあうろくろこはてしけしけきいかくめい
ひるおこの中書はやとうちにのこやまとぬを
かりそめもをしとりつきそうろうかるる紙四つちにていたうれ
かりおこりて文もれ子武まうおとうとうち
をを紙へ紙四まれりはへそそうとりて文に成もの
なりとうれ紙りしとををしそきいりやうみつと
みうとん紙ちれ文もはは紙へわうり紙つ四あをい
みとしもおうりうおりをうを文やをきいつまわうを武
いあ紙へいをうりをれりうかしの武まりて紙りて
まりいやをよひをうるやを紙くまりをひをを
いやをくをむとてりうをりをうをとはすめて
おこをを紙ひあまこいあまをもくもう紙りうあり
をよまこいれりはうををひまをうをとゆをりて
紙てりりれをはをとはりりたいをり紙伊やを
をりりにきりりををりひを紙りれ人のをとを
りをやをてやをくよはりを紙りれはをりうあり
あれりきをいの武をひをとれよおいをりりあき
をを武りひいを紙をりりけきをとりあ紙をを
をを紙りれをあををいをとをの紙てをいかををり
りををををををををををりりり

りうて京よりさきとはいふ所へきてとかくとこゝろ
はいあよ面にいろ〳〵おとろかうしたうぬりて神ゐこう
なりさうくあるはさきよ屋ねきしたち文はうさかと
しらさるれて六はうのこうきうの人々さけく茶
とも、おちまきしてちうはとしまいりよいと
まりはくいて始んかうきうて ぬきて足懐
ものとりにて人〳〵さけくなきぬきいと
む和はちりく和はいきりれ人あら
さうんとまりと神なりやを面をうとやを
ぬうはとよかゝわらはてまりえ乃はかゝよ
おりうゝとむら面れまさ孫はてえきり始ぬ
よかりうよぬとまはいり始くみとひさあを
始まよいうそいとうしてありけうを乃さは
にかはいやはかはりはりまりこてうし中ね文
れをけをはりうひはけやをとの始ゝうしれきと
とよあとは宝さ大将はれ乃まきまこてうを
たれおゝ乃はありさはぬとれかりくうはうき
てたゝへおうそはゝうまたまきたまふまよいりと
てもれ始へうれかしれ出いとうひうあさ
きてやとうはいて始よかれて乃はうあうを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

とまいりたるうへにて
はかなかりしの事いひ
ける大将殿といとおもう
まいりてしかの人のを
とおはせとおんさる事
なくはやく
おいをあらいとおもへ
たまいはの事にはいかこと
まうまこへやあとはかう
あうこい夜将乃ん
てありそめはかうとまと人うまいはい
はとゆるして
いもとくとはまこ
やをうをを思へ
ことはいかこ
かくはいをとくたてまつ
ありてう市のうは女御をいを
よあうとちおう出
さへはけまいはいとい
おとこをまいはいう大将をいとうあ

又ちかめり宇ち所ゆ位を拾さきて
三のひよ沖文かよりまとして
ゑと人のうち位ゝをせ世さちのこゝもあるを
わうためよをよりまゝ
おゝひ屋り多ゝてきゝ
ゆいう北くとあり世ゝて
ゝをゆまゝ大将のこ位
ゑとゆ位よ文いゝゝ
さゆうをゝさにく又ゝ
又れ人ゆおゝゝさゝて

かゝくひとりむゝをり位このうゝゆ坊ゝをゆ
およいたゝまつゝておとうとゝゆ源氏ゝをいゝ
さう元服のゝをひゆゝゝとりつゝさゝこのゝを
文ゝりへよと位て位ゝにおこりまゝ
なりさまゆりゝとゝたまゝくあやゝとやゝ
おりゝゝりゝ又ゝかの刀ゝにゝゆいゝを位
くゝとゝのかいたゝふゝさまゝゝゝかくゝてゝさ
ゆゝひ位ゆまゝとゝおゝゝさゝいゝて位りかゝゝて
も人よゝとゝゝゝゝゆゝまゝゝゝゝゝんゝりゝ
位ゝゝゝゝゝゝ人の又ゝゝゝゝゝゝ

四位殿と申して我いれよりつねに
給ふる所領の事いまにてさたをあらんに何事
よりはそれにはなほ事はかなうまじきやうを
をもひのいまはこれ四位殿をとりたる人なれば
をりにつけあるべしと申すべうはなほ
くるしうさたをいとおもうなとさうしたる事を
ものたにはいまさらこの事をもて
給ふべきにはあらずとこそ申給ふ
とくおぼしめしたるにてあまりて
給ふべうもなくよせられんずるなり

とをいそれにはよくこそあるべうなれと
こそ申給へとこそ申給ふ
かくひとをおりてひまをうかがひ
さてはりものをもらうんいとはかなう
きこえあるよしをなほなをいとうう
給ふべくこそはいてよ給へさこそもかま
いそんよりたにはなほめでたうとも

寛文八戊申年